

エコアクション21

# 環境活動レポート

43期（令和元年度）  
（令和元年8月～令和2年7月）



発行 令和2年9月1日

株式会社小山千緑園

# 目 次

I.	環 境 経 営 方 針	.....	1
II.	当 社 が 行 う 環 境 活 動 の 基 本 的 考 え 方	.....	2
III.	組 織 の 概 要	.....	3
IV.	環 境 目 標	.....	5
V.	環 境 活 動 計 画	.....	7
VI.	実 施 し た 取 組 内 容	.....	9
VII.	次 年 度 の 取 組 内 容 と 目 標	.....	14
VIII.	環 境 関 連 法 規 等 の 遵 守 状 況 の 確 認 及 び 評 価 結 果 並 び に 違 反 、 訴 訟 等 の 有 無	.....	17
IX.	代 表 者 に よ る 全 体 評 価 と 見 直 し の 結 果	.....	18

# I . 環境経営方針

## 【基本理念】

株式会社小山千緑園は、地球環境保全の重要性を全従業員が認識し、その認識のもとに全ての業務を行うことにより、より良い環境づくりを継続的に改善していきます。

## 【基本方針】

株式会社小山千緑園は、造園建設業の生産活動を通じて「快適な暮らしと健康」、「地球環境への調和」を掲げ、全従業員が事業活動のあらゆる面で地球環境に影響を与えていることを配慮して行動します。

1. 環境経営システムを構築し、次の事項を重点的なテーマとして、環境目標を設定・見直しなどの効果的な取り組みを行います。
  - (1) 使用エネルギー(電気、ガス、軽油、ガソリン)の節約によるCO<sub>2</sub>排出量の削減
  - (2) 資源のリサイクルの推進と廃棄物排出量の削減
  - (3) 社内文書ペーパーレス化の推進
  - (4) 水使用量の削減
  - (5) 環境配慮型商品購入の推進
  - (6) 地域社会貢献活動の推進
  - (7) 殺虫剤・殺菌剤等薬剤の適正管理
  - (8) 本社及びガーデンハウスメルハバ本店・同IC店による植樹提案
  - (9) 緑化による地球温暖化の防止
2. 環境保全に関わる法律を遵守し、社会的責任を遂行します。
3. 造園建設工事において、行政機関、関連団体などの環境保全施策に協力すると共に、地域社会における環境保全活動に対し積極的に参画します。
4. 社会への情報公開として環境活動レポートを作成し、環境取り組みの状況を公表します。

制定日 平成 22年 8月 1日

改訂日 令和 元年 8月 1日

株式会社小山千緑園

代表取締役 小山 徹志

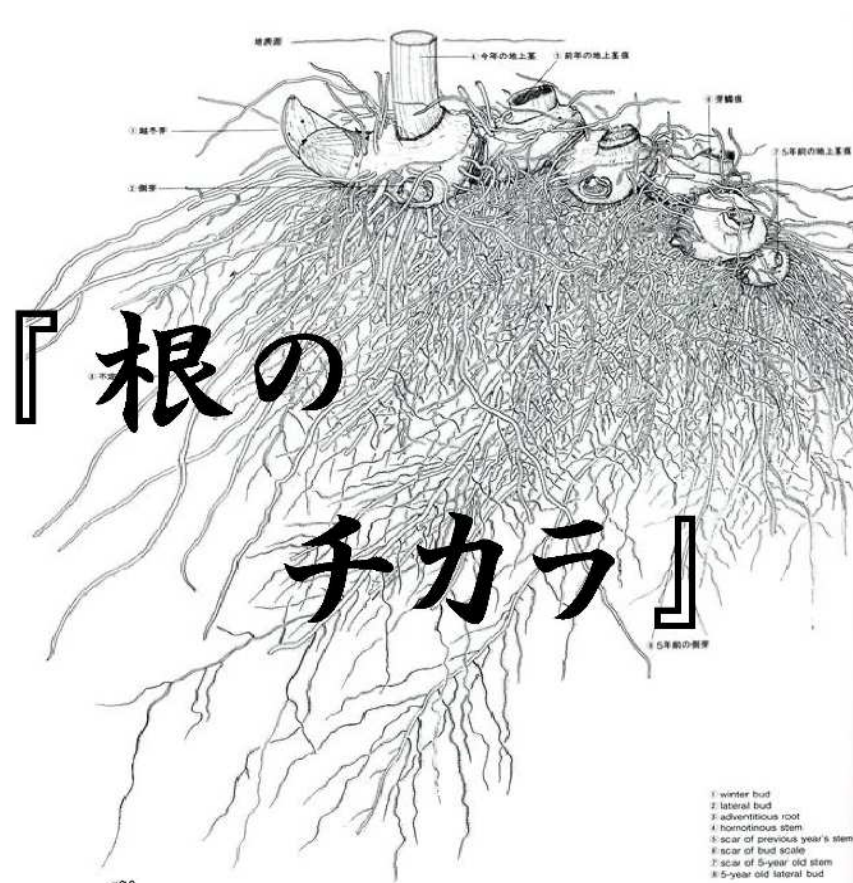
## Ⅱ．当社が行う環境活動の基本的考え方

- 当社は建設業のため毎年の現場内容により生産量が増減する。そのため、現場での環境活動計画が受注工事内容により変化することは否めないことである。  
ただし、建設発生土のリサイクル率、建設副産物のリサイクル率については受注高の大小、受注工事内容に関わらず目標を設定出来るのでこの目標は確実に達成して行きたいと思う。
- 現場等の二酸化炭素排出量、産業廃棄物排出量については先述したように工事内容により排出量も増減するので、各現場による管理を行う計画としていきたい。
- 本社等の二酸化炭素排出量については事務所内温度管理、残業、休日出勤の抑制等により削減していきたい。  
また、事務所内省エネタイプエアコンにする計画を立て進めていきたい。
- 環境配慮型商品購入についても事務所、工事現場を問わず推進していきたい。
- 環境活動対策としては、ガーデンハウスメルハバにより、地域住人との交流を深め、植樹提案やガーデニング講習会等を通じ緑による社会貢献を推進していきたい。
- 経営計画書に基づき各社員に割り当てられた組織、経営労働部会の運営の一環として、環境経営委員会を軸に各委員会と連携し環境活動を進めていきたい。
- 認証取得済みのISO9001と共にCSRを果たすべく、エコアクション21との融合を図りつつ日々の業務に取り組むたい。
- 以上の事を踏まえながら次頁に取りまとめた環境目標、環境活動計画によりエコアクション21に取り組んでいきたい。

### Ⅲ. 組織の概要

#### (1) 企業理念

我々は、人間的なふれあいを大切に、相互の理解と信頼を築き技術の向上で環境緑化に関連する事業を極め、お客様と社会に貢献できる企業を目指す。組織と社員が共存共栄を図り、自己の研鑽と変革に挑戦し時代のニーズにあった企業活動発展、さらに社会的地位と生活の向上を図る。



(2) 事業者名 : 株式会社小山千緑園

(3) 代表者名 : 小山 徹志

(4) 所在地 : 〒 813-0036

本社 福岡市東区若宮5丁目9番8号

店舗 : ガーデンハウスメルハバ 福岡市東区若宮5丁目9番3号

メルハバアイランドシティ店 福岡市東区香椎照葉3-4-10

圃場 : 〒811-2503

久山圃場 糟屋郡久山町大字猪野

(5) 設立年月日 : 昭和52年9月1日

(6)環境管理責任者 : 坂根 茂

(7)連絡先 : TEL 092-673-0401  
FAX 092-673-0403  
HP:http://senryokuen.co.jp/  
e-mail:sakane@senryokuen.co.jp

(8)事業内容 : 造園工事一式

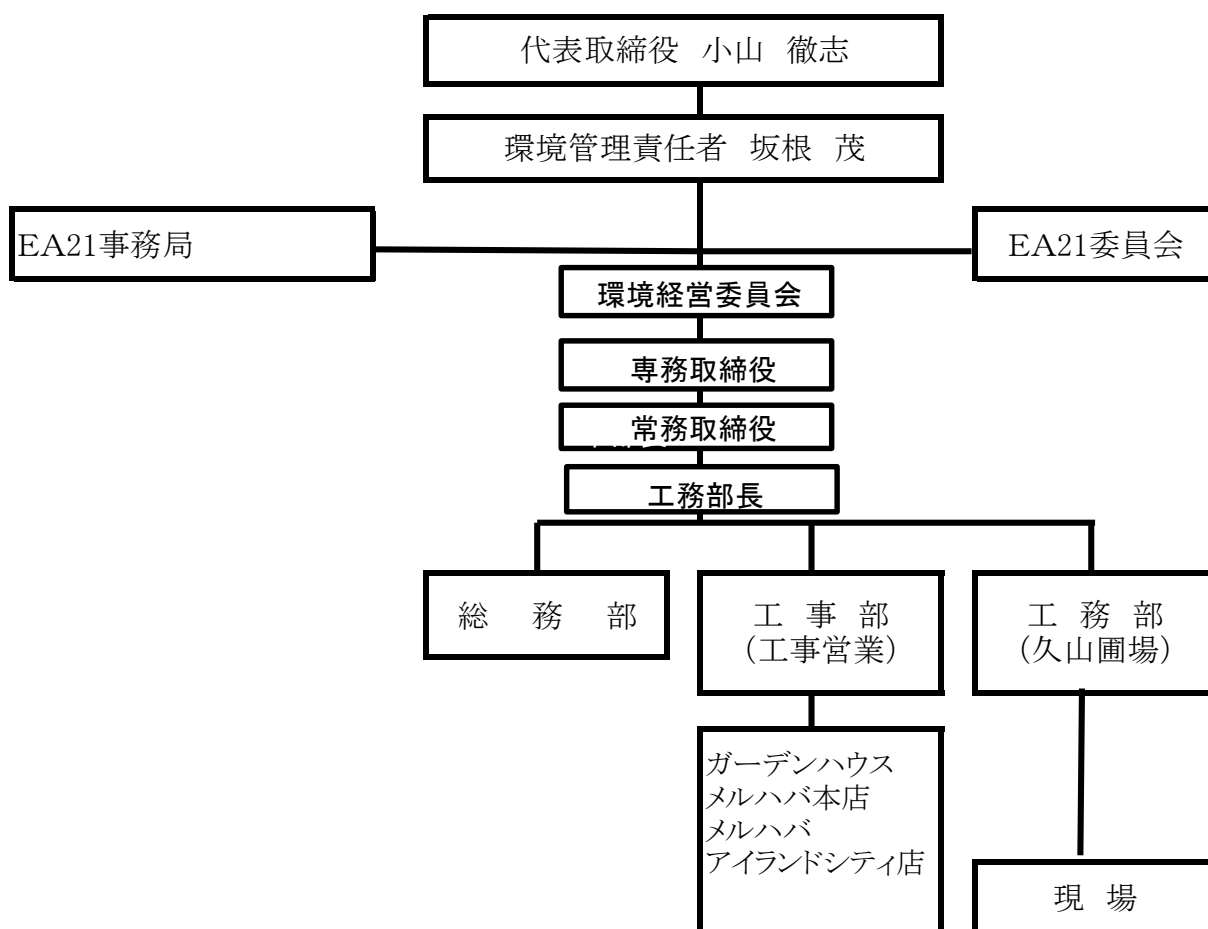
(9)事業の規模 : 資本金 30,000千円

社員 30名

売上高530百万円(令和元年度(43期)実績)  
(事業年度:8月～翌年7月)

(10)許可内容 : 建設業許可  
福岡県知事許可 (特)27-109244号  
造園工事業

(11)実施体制図 : 認証登録範囲



(12)認証登録範囲 : 全組織・全活動を対象とする。

## IV. 環境目標

・前述した当社の環境活動に対する基本的考え方を踏まえて、環境目標を事務所と現場に分けて、以下の通り設定した。

### < 本社等 (本社+店舗) >

環境目標		単位	基準年度 41期 (29年度)	43期 (31年度)	44期 (2年度)	45期 (3年度)	46期 (4年度)
1	二酸化炭素 排出量の削減	kg-CO <sub>2</sub>	37,318	36,758 (△1.5%)	36,572 (△2.0%)	36,385 (△2.5%)	36,198 (△3.0%)
	電気使用量 本社電灯	kwh	11,166	10,999	10,943	10,887	10,831
	電気使用量 本社エアコン		10,093	9,942	9,891	9,841	9,790
	電気使用量 メルハバ2店舗		3,928	3,869	3,849	3,830	3,810
	ガソリン使用量	リットル	8,758	8,627	8,583	8,539	8,495
	軽油使用量		1,971	1,941	1,932	1,922	1,912
2	水使用量の削減	m <sup>3</sup>	692	650 (△6.0%)	630 (△9.0%)	609 (△12.0%)	588 (△15.0%)
3	環境配慮型商品 (事務用品)の購入 推進	% (購入金額率)	94	96 (+2.0%)	97 (+3.0%)	98 (+4.0%)	99 (+5.0%)
4	地域社会貢献 活動の推進	人日	8	11	12 (+50.0%)	13 (+60.0%)	14 (+70.0%)
5	化学物質 (使用薬剤) の適正管理	表対在庫 相違率 (%)	30	18	17 (△55.0%)	15 (△50.0%)	14 (△45.0%)
6	メルハバによる 植樹提案	提案件数 成約数 (件)	15	18	18 (+20.0%)	20 (+30.0%)	21 (+40.0%)



<現場>

環境目標		単位	基準年度 41期 (29年度)	43期 (31年度)	44期 (2年度)	45期 (3年度)	46期 (4年度)
1	建設副産物の リサイクル推進	% (リサイクル 率)	100%	100 (±0%)	100 (±0%)	100 (±0%)	100 (±0%)
2	建設発生土の リサイクル推進	% (リサイクル 率)	100%	100 (±0%)	100 (±0%)	100 (±0%)	100 (±0%)
3	産業廃棄物排出 量の削減	t	53	44.5 (△16.0%)	42.4 (△20.0%)	39.8 (△25.0%)	37.1 (△30.0%)
4	排ガス対策 機械の使用	% (工事使用 率)	100%	100 (±0%)	100 (±0%)	100 (±0%)	100 (±0%)
5	環境配慮型商品 (再生資材)の使用 推進	% (購入金額 率)	(-)	70 使用資材は 指定品目を (リスト見直し)	72	74	75
6	緑化による地球 温暖化防止	(件) 緑化推進助 成金利用によ る緑化提案 成約数	15	18 (+20.0%)	20 (+33.0%)	21 (+40.0%)	23 (+50.0%)

備考:・基準年は29年度とし、今後5年間は固定する

- ・期(年度)は会計年度 8月～次年7月末までを示す。
- ・化学物質については削減が困難なため、削減目標からは除外したが、「薬剤適正管理」を数値化する事とした。
- ・二酸化炭素排出量における購入電力排出係数は0.463kg-CO<sub>2</sub>/kWh(九州電力(株) 調整後排出係数)を用いた。
- ・受注工事の内容により現場環境が大きく変わり環境負荷の内容も年度単位での対比が困難なため、現場の二酸化炭素排出量は全社まとめて事務所+店舗に算入。
- ・現場の環境配慮型商品使用推進については品目リストが少ないため基準年度は100%となっているが今年度は指定品目リストを追加し再目標を掲げる。
- ・地球温暖化防止は、福岡市の助成金申請を提案。



## V.環境活動計画

・設定した環境目標を達成するため、担当責任者を決めて以下の具体的な活動計画に取り組む。

### <本社等>

#### 1. 二酸化炭素排出量の削減

取組目標	活動項目	責任者
(1) 電気使用量の削減	① 不要なエアコン使用を抑制	大穂
	② 不要電力消費抑制	坂根
(2) 車両 燃料の削減	① 車両点検整備の徹底・エコドライブの推進	内田

#### 2. 水使用量の削減

取組目標	活動項目	責任者
(1) 節水活動 (水道使用量削減)	① 灌水用水の節約・節水活動の推進	福富

#### 3. 環境配慮型商品(事務用品)の購入推進

取組目標	活動項目	責任者
(1) 事務用品 環境配慮型商品購入	① 品目リスト作成 積極的な購入	大穂

#### 4. 地域社会貢献活動の推進

取組目標	活動項目	責任者
(1) 事業所、各自宅地域等での ボランティア活動推進	① ボランティア活動に積極的参加 (緑化推進活動を含む)	山下

#### 5. 化学物質(使用薬剤)の適正管理

取組目標	活動項目	責任者
(1) 薬剤庫のストック薬剤を 入出庫表にて管理する	① 入出庫一覧表の充実、確実に記入	北郷

#### 6. メルハバによる植樹提案

取組目標	活動項目	責任者
(1) お客様ニーズを把握し テーマに沿ったセールを行う	① お客様アンケートの実施 施工例集を完備しテーマを決めセールを行う	川畑

## <現場>

### 1. 建設副産物のリサイクル推進

	取組目標	活動項目	責任者
(1)	建設副産物のリサイクル率 UP	① マニフェスト管理の徹底 廃棄物分別の徹底 鉄くず処分手順作成	小山(龍)

### 2. 建設発生土のリサイクル推進

	取組目標	活動項目	責任者
(1)	発生土のリサイクル率 UP	① 排出伝票管理の徹底 不法投棄皆無へ 毎月単位で集計の徹底	森廣

### 3. 廃棄物排出量削減

	取組目標	活動項目	責任者
(1)	廃棄物回収コンテナへの 投入量 削減	① ゴミの分別、野良猫・カラス寄り付き対策	前田
		② 紙使用量の削減	上畑

### 4. 排ガス対策機械の使用

	取組目標	活動項目	責任者
(1)	排ガス対策機械の使用率 UP	① 車両・機器整備を年間で日程を決め実施する	内田

### 5. 環境配慮型商品(再生資材)の使用促進

	取組目標	活動項目	責任者
(1)	使用資材は独自リスト 環境配慮型商品購入	① 品目リスト作成 積極的な購入	長野

### 6. 緑化による地球温暖化の防止

	取組目標	活動項目	責任者
(1)	緑化による地球温暖化防止	① 民間工事における緑化推進 (プレゼンで顧客にアピール)	坂那

## VI. 環境目標の実績

・43期(令和元年度)における環境目標の達成状況は、以下の通りです。

### <本社等>

- ・二酸化炭素排出量は、達成したものの、本社等の電気使用量は照明LED化より下がったが、エアコン使用月は、猛暑に加えコロナによる頻繁な換気等もあり増えている。
- ・水使用量は夏場の灌水量は膨大で、日々の地道な節水あるも未達となった。
- ・環境配慮型商品購入は代替え商品がないものを多く購入したため未達。
- ・地域社会貢献活動では、ボランティア活動がほぼ中止となり未達
- ・薬剤庫管理は管理表が未整備となり記表が滞り相違率を数値化すら出来なかった。
- ・植樹提案はメルハバと本社の連携がうまく取れ伸びている

環境目標	単位	43期 (令和元年度)		目標 達成率	達成 判定
		目標	実績		
1 二酸化炭素排出量の削減	kg-CO <sub>2</sub>	36,758 (△1.5%)	34,675	106%	○
	電気使用量 本社電灯	10,999	8,189	134%	○
	電気使用量 本社エアコン	9,942	9,280	107%	○
	電気使用量 メルハバ2店舗	3,869	3,526	110%	○
	ガソリン使用量	8,627	7,768	111%	○
	軽油使用量	1,941	2,676	73%	×
2 水使用量の削減	m <sup>3</sup>	650 (△6.0%)	788	82%	×
3 環境配慮型商品(事務用品)の購入推進	% (購入金額率)	96 (+2.0%)	94	98%	×
4 地域社会貢献活動の推進	人日	11	7	64%	×
5 化学物質(使用薬剤)の適正管理	表対在庫 相違率(%)	18	—	0%	×
6 メルハバによる植樹提案	提案件数 成約数(件)	18	20	111%	○

備考 ・目標値( )内は基準値からの削減率を示す。

- ・目標達成率の計算：削減目標の場合 (目標÷実績)×100 [%]  
：増加目標の場合 (実績÷目標)×100 [%]
- ・達成判定区分：○ 目標達成 × 目標未達成
- ・二酸化炭素排出量実績には現場使用の軽油を含む

## <現場>

- ・公共工事現場から直接排出される副産物や発生土は適切に処理されているが、本社に持ち帰る少量廃棄物の処理がうまくいっていない。量も増えている。
- ・各項目ともに公共工事の内容に大幅に左右されるため、今後もコストを考慮しつつ取り組んでいきたい。
- ・緑化による温暖化防止は福岡市の助成金申請件数をカウントしようとしたがやはりお客様へのメリットが少なく、強くお勧め出来ず、別な作戦で今後は考える。

環境目標	単位	43期 (令和元年度)		目標 達成率	達成 判定
		目標	実績		
1 建設副産物のリサイクル推進	% (リサイクル率)	100	100	100%	○
2 建設発生土のリサイクル推進	% (リサイクル率)	100	100	100%	○
3 産業廃棄物排出量の削減	t	44.5	48.5	92%	×
4 排ガス対策機械の使用	% (現場使用率)	100	100	100%	○
5 環境配慮型商品(再生資材)の使用推進	% (購入金額率)	70	100	143%	○
6 緑化による地球温暖化防止助成金利用 推進	件 (提案成約件数)	18	0	0%	×

備考 ・目標値( )内は基準値からの削減率を示す。

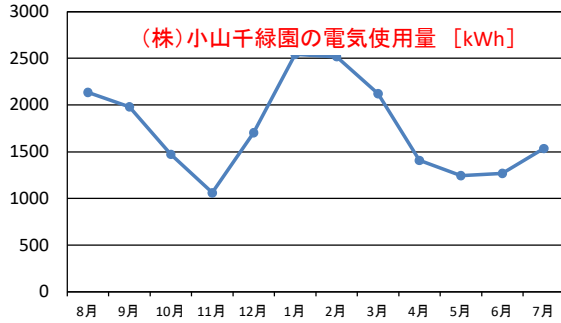
- ・目標達成率の計算：削減目標の場合 (目標÷実績)×100 [%]  
：増加目標の場合 (実績÷目標)×100 [%]
- ・達成判定区分 :○ 目標達成 × 目標未達成

①電力1 31年度（43期）全社

購入先：九州電力

排出係数：0.463 kg-CO2/kWh 平均単価：□□□□ 円/kWh

項目	単位	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	合計	月平均
使用量	kWh	2134	1983	1471	1061	1705	2544	2518	2123	1407	1244	1270	1535	20995	1,750
料金	円														
CO2排出量	kg-CO2	988.0	918.1	681.1	491.2	789.4	1177.9	1165.8	982.9	651.4	576.0	588.0	710.7	9,721	810.1

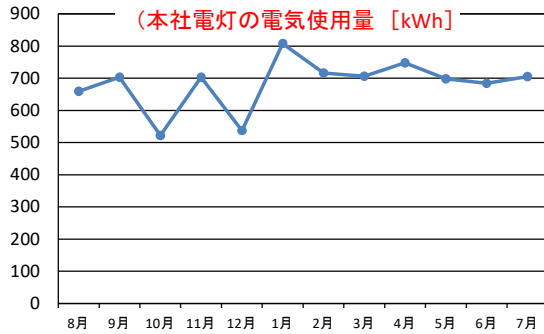


①電力1 本社電灯電力

購入先：九州電力

排出係数：0.463 kg-CO2/kWh 平均単価：□□□□ 円/kWh

項目	単位	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	合計	月平均
使用量	kWh	659	703	522	703	537	808	716	706	748	698	684	705	8189	682
料金	円														
CO2排出量	kg-CO2	305.1	325.5	241.7	325.5	248.6	374.1	331.5	326.9	346.3	323.2	316.7	326.4	3,792	316.0

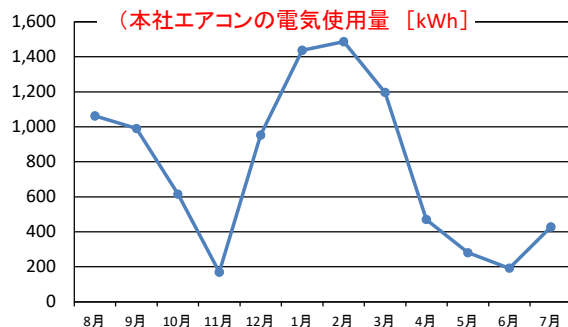


①電力1 本社エアコン電力

購入先：九州電力

排出係数：0.463 kg-CO2/kWh 平均単価：□□□□ 円/kWh

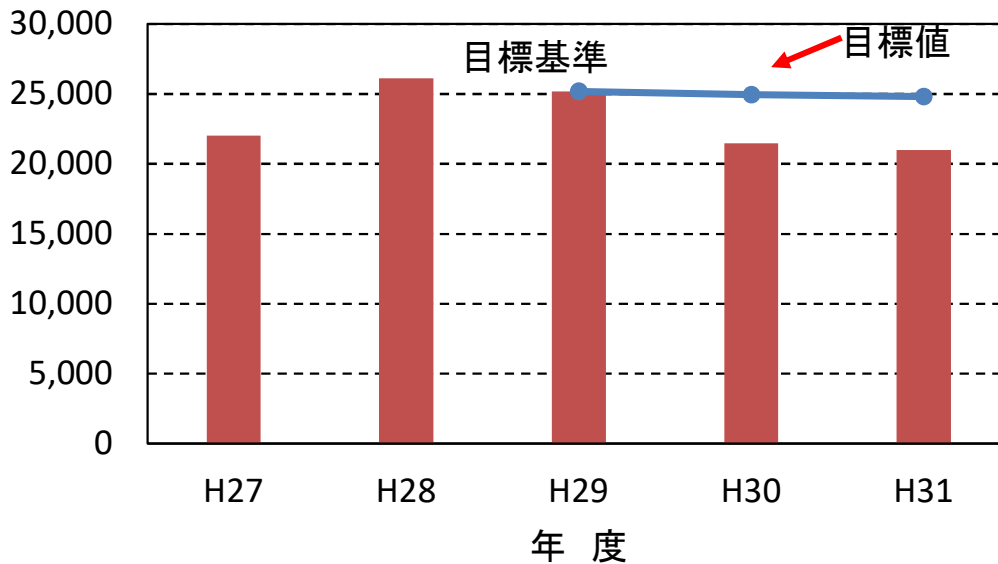
項目	単位	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	合計	月平均
使用量	kWh	1,062	990	615	170	952	1,437	1,486	1,196	470	281	193	428	9,280	773
料金	円														
CO2排出量	kg-CO2	491.7	458.4	284.7	78.7	440.8	665.3	688.0	553.7	217.6	130.1	89.4	198.2	4,297	358.1



## 電力使用量 [ kWh ]

年度	H27	H28	H29	H30	H31
目標値			25,187	24,935	24,809
使用量	22,013	26,109	25,187	21,468	20,995

## 電力使用量 [ kWh ]

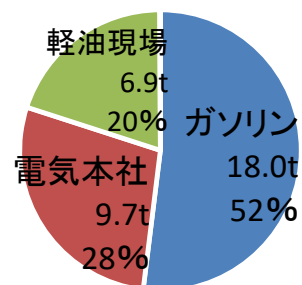


(株) 小山千緑園

二酸化炭素排出量割合 31年度(43期)

項目	CO <sub>2</sub> [t]
ガソリン・本社等	18.0 t
電気・本社等	9.7 t
軽油・現場	6.9 t
LPG・本社等	0.03 t
合計	34.6 t

## 二酸化炭素排出量







## VII. 環境活動計画の取組結果とその評価、 次年度の取組内容と目標

- ・環境目標の達成に向けて取り組んだ環境活動計画の実施状況は、以下の通りです。
  - ・事務所+店舗の取組については、薬剤管理が昨年は順調だったが、管理表記入が滞ると機能ストップしてしまうという弱点が見つかった。
- 他の項目は数値的な目標達成は別として、活動への取組は強固になってきている。

### < 本社等(事務所+店舗) >

#### 1. 二酸化炭素排出量の削減

取組目標	活動項目	実施状況	評価	次年度に向けての取組目標
(1) 電気使用量の削減	① 不要なエアコン使用を抑制	○	エアコン温度管理は定着した。LED化での電気使用量は予定通り削減	次年度も室内換気が必要な状況が続くと思われるので、室温管理と併せて事務所内で協力し進めていきたい。
	② 不要電力消費抑制	○		
(2) 車両 燃料の削減	① 車両点検整備の徹底・エコドライブの推進	△	毎月エコドライブ10より重点目標をチョイス 朝礼や会議で意識が高まっている。車両運行表も定着	引き続きこの取り組みを進めたい車両の定期点検は軌道に乗っているが、調子が悪いときのマニュアルを徹底したい。

#### 2. 水使用量の削減

取組目標	活動項目	実施状況	評価	次年度に向けての取組目標
(1) 節水活動(水道使用量削減)	① 節水活動の推進	○	メルハバ商品の配置換えで灌水頻度を調節出来た	さらに季節毎に配置を換え灌水量を調節し 水使用量を抑えたい。事務所内の使用量は安定。

#### 3. 環境配慮型商品(事務商品)の購入推進

取組目標	活動項目	実施状況	評価	次年度に向けての取組目標
(1) 事務用品を環境配慮型商品購入	① 品目リストの作成 積極的な購入	○	品目リストに代替商品が無い物も含まれており、それを購入するとき割合が落ちる。	代替品が無い物はリストから外し、リサイクル可能商品等をカウントする。

#### 4. 地域社会貢献活動の推進

取組目標	活動項目	実施状況	評価	次年度に向けての取組目標
(1) 事業所、各自宅地域等でのボランティア活動推進	①ボランティア活動に積極的参加 (緑化推進活動を含む)	△	コロナ禍で予定していたボランティアがことごとく中止となり結果活動は少なかった。	会社周辺及び各社員自宅周辺での活動の情報を収集し、生かしていきたい

#### 5. 化学物質(使用薬剤)の入在庫管理

取組目標	活動項目	実施状況	評価	次年度に向けての取組目標
(1) 薬剤庫のストック薬剤を入在庫表にて管理する	① 入在庫一覧表の見直し 確実に記入	×	管理表が一時的に機能しなくなると続けることが困難になる。	わかりやすいタグや品目別収納スペースを作り整理しやすくなってきたが、肝心の管理表を誰が見てもわかりやすいように、フォームを変更したい。

#### 6. メルハバによる植樹提案

取組目標	活動項目	実施状況	評価	次年度に向けての取組目標
(1) お客様ニーズを把握しテーマに沿ったセールを行う	① お客様アンケートの実施 施工例集を完備しテーマを決めセールを行う	○	メルハバのイベント等も認知され工事成約に繋がることも多くなってきている。  アンケートは行ってもそれを生かす事がまだ構築出来ていない。	施工例等を、お客様に見せる機会を増やし、工事成約数増加につなげていきたい  担当者を決め定期的に取り纏めを行いたい。

## <現場>

- ・建設副産物のリサイクル推進については、小規模工事で発生した少量ゴミも現場での処分が進んできたが、鉄くず分別処分の手順書を作成しさらに分別を推し進めたい。
- ・環境配慮型商品(再生資材)の使用推進は、リスト整備を急ぎたい。
- ・助成金制度活用はやはり難しい、温暖化防止につながるような工事をお勧めし成約出来たらカウントするように方針変更する。

### 1. 建設副産物のリサイクル推進

取組目標	活動項目	実施状況	評価	次年度に向けての取組
(1) 建設副産物のリサイクル	① マニフェスト管理の徹底	○	公共工事でのマニフェスト管理は完全に出来ている。本社に設置してある産廃ボックスの分別がなかなか出来ない。	鉄くずを分別しているがそれもマニュアルが無い。手順書を作成し処分までの流れを決めていきたい。

### 2. 建設発生土のリサイクル推進

取組目標	活動項目	実施状況	評価	次年度に向けての取組
(1) 発生土のリサイクル	① 排出伝票管理の徹底 不法投棄皆無へ	○	今年度は建設残土としては発生していないが小規模な残土は把握出来ていない物がある	久山圃場の少量の土は残土という扱いでは無く利用する仮置きという位置づけとする。

### 3. 廃棄物排出量の削減

取組目標	活動項目	実施状況	評価	次年度に向けての取組
(1) 廃棄物回収コンテナへの投入量削減	① ゴみの分別 野良猫・カラス寄付対策	△	生ゴミ等の投入は少なくなったが、投入ルールは徹底出来ていない。	猫・カラスの被害は少なくなった。さらに継続出来るようにしたい
	③ 紙使用量の削減	○	裏紙使用を徹底 プリンター用裏紙補充も出来ている。	ミスプリントが多く、それが裏紙に回っている。根本対策をしたい

### 4. 排ガス対策機械の使用

取組目標	活動項目	実施状況	評価	次年度に向けての取組
(1) 排ガス対策機械の使用	① 車両・機器整備を 年間で日程を決め 実施する	○	各現場、協力業者も間違いなく排ガス対策車・低騒音車を導入(レンタル)している。	協力業者使用機械の点検整備まで応援できる体制が、まだ完全では無い。

### 5. 環境配慮型商品(再生資材)の使用推進

取組目標	活動項目	実施状況	評価	次年度に向けての取組
(1) 使用資材は独自リスト作成 環境配慮型商品購入	① 品目リスト作成 積極的な購入	×	未だ、品目リストが未整備で、品目が少ないため購入は100%となっている。	リスト作成チームを設け、確実に機能させたい。

### 6. 緑化による地球温暖化の防止

取組目標	活動項目	実施状況	評価	次年度に向けての取組
(1) 民間工事での緑化推進	① 民間工事における緑化推進(プレゼンで顧客にアピール)	×	助成金制度活用により再チャレンジしたが、お客様にメリットが無く、お勧めしなくなった。	ヒートアイランド対策につながる工事成約をカウントしていく。

## VIII. 環境関連法規の遵守状況の確認及び 評価結果並びに違反、訴訟等の有無

- ・当社の事業活動に係わる主な環境関連法規遵守活動は、以下の通りです。
- ・43期(令和元年度)の事業活動における法令遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。
- ・また、関係機関からの違反の指摘、利害関係者からの訴訟も過去5年間ありませんでした。

主な環境関連法規 遵守取組活動	主な遵守取組活動事項	遵守結果
廃棄物の処理及び清掃に 関する法律	事業者は一般廃棄物の処理を法第7条第12項に規定する許可業者その他環境省令に定める者に委託しなければならない。 【委託契約書の確認を毎年実施】	○
	産業廃棄物が運搬されるまでの間の保管の基準 【廃棄物を社内または現場に保管する場合の基準が定められています(技術基準)】 ・囲い ・表示(60×60センチ) ・表示内容(産廃種類、氏名、連絡先) ・積み上げ高さ ・飛散・流出・地下浸透・悪臭防止 積み上げ勾配 など	○
	管理票交付状況報告書 作成と提出 行政年度内に交付した管理表をまとめ、提出しなければならない	○
農薬取締法	水質汚濁性農薬の使用の規制 使用者の教育【社員の農薬指導士資格取得】	○
特定外来生物による生態系等に係わる被害の防止に関する法律	特定外来生物は外で放ち植え又はまいてはならない。 情報収集、整理分析並びに研究の推進を講ずるよう努めなければならない【樹木・花苗仕入れ時に確認】	○
フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律(フロン排出抑制法)	簡易定期点検 簡易点検(3か月に1回以上)を行わなければならない。 室外機:異常振動、異常運転音、油漏れ、キズの有無、熱交換器の腐食、錆など 室内機:熱交換器の霜付きの有無	○

## IX. 代表者による全体評価と見直しの結果

### (1) 43期(令和元年度)取組評価について

- ・環境に対する意識は社員間で年と共に全体的には高まってきている、2年目 新人達が積極的に活動してくれている。
- ・二酸化炭素排出量の削減は、LED化により電気使用量は減っている エアコン稼働でも換気を効率よく実施、コロナ禍の中でよくやっている。
- ・水使用量に関しては、取組意識は高いが、猛暑小雨時期が多く結果未達 本社での節水活動は定着しているので、メルハバ灌水方法の工夫により水使用量削減にさらに取り組んいきたい。
- ・事務用品の環境配慮型商品購入は、リストも充実してきており、担当者の意識も高い。
- ・地域社会貢献活動はコロナでことごとくボランティア活動が中止となり未達となったが、社員の意識は高まっている。
- ・薬剤庫管理はせっかく軌道に乗っていたが、記入フォーム滞りがひとたびあると機能しなくなるという弱点が露呈 ここをうまく改善していきたい。
- ・廃棄物排出量は、数値目標は、達成していないが 猫・カラスの寄り付きが無くなる、つまり分別の徹底が進んでいることを評価したい。
- ・環境経営システムは、経営計画書の経営労働部会とうまく連動し、機能してきている。さらに仕組みが回るように取り組んでいきたい。

### (2) 見直しの必要性と指示について

- ・数値目標も大事であるが、先ずはお客様にとってメリットがあるか否かを第一判断基準として活動していけるように軌道修正していきたい。
- ・エアコンが老朽化している。フロン問題含め次の着手はビルトインのエアコンだが、コスト等考慮しながら慎重に進めていきたい。
- ・本社に置いてある廃棄物ボックスへのゴミ投入について、社員、協力業者についてはかなり意識が高まり、猫やカラスの害はかなり減っているが、分別や絶対量の軽減についてさらに取り組んでいきたい。
- ・燃料消費で現場での二酸化炭素排出量削減に向けての取組が進んできているが、単純に燃料消費量では数値退避としての目標は立てにくい。現場での目標設定出来るものを画策していきたい。